

平成 18 年度

北海道視聴覚教育研究大会
札幌市視聴覚教育研究大会

今求められる情報モラル教育
～ 個人情報保護に関する授業実践 ～



北斗市立大野小学校

教諭 佐々木 朗

(1)授業研究の目的

インターネットが急速に普及する社会環境の中で、子どもたちも、またその保護者たちも、ネット社会に対する不安は多かれ少なかれ持っているであろう。それに対応していくべき情報モラルの教育については、家庭におけるしつけの役割も大きい一方、学校教育においても今後益々重要視されていかなければならないものとする。私は、情報モラルの教育のうち「個人情報の保護」に関わる題材を選び、この度の実践を行った。

その目的は次の通りである。1つ目は、個人情報の保護とはどんなことをしっかりと学んでほしいということである。社会一般が個人情報についての目が厳しくなってきた昨今、プライバシーという言葉が、子どもたちの口からも頻繁に出るようになってきている。自分に関わる情報をみだりに人に話さない。これは、命題として正しいであろう。しかしその一方、この個人情報の保護があまりにも過敏になっているきらいもある。例を挙げると平成17年に行われた国勢調査においても、今回ほど調査員が苦勞した調査はなかったという。アパートなどでは、チャイムを鳴らしても出てこない、出てきても調査員に対して、調査の必要性を厳しく詰問したりなどが、実際にあったそうである。プライバシーに関わることを持ち出しただけで、相手の良識が疑われるまで過敏になっている実情もある。このような背景の中、平成17年4月には個人情報保護に関する法律が制定された。この法律により個人情報を扱う者は、その使用目的を逸脱することなく、またその管理を厳重にすることが義務化された。子どもたちには、個人情報とは何なのか、また、なぜ大切にしなければならないのかをしっかりと学んでほしい。

もう一つは、個人情報の悪用の可能性について知ってほしいことである。個人情報が価値を生み、2次利用されたり、情報収集を目的として子どもたちを騙す手口が起こったりしていることである。個人情報の価値が非常に高まっている背景には、情報のデジタル化が大きく関わっている。デジタルで入力されたデータは、判別、複製、加工が非常にたやすくされる。インターネットからの会員登録、プレゼント応募などは全てこのデジタルなデータとなるわけである。これらのデータを仮に2次利用しようと考えた場合、年齢や、その人の嗜好などによって、絞り込まれた情報が検索することがいとも簡単にできることになる。さらに、特定の嗜好に対して好まれる製品などの情報について、電子メールで送ったり、宛名印刷を使ってダイレクトメールを送付したりしてりすることも可能となる。実際、子どもたちの中には、町の行政機関の名や運送会社の名を語り、友だちの情報を聞き出そうとする電話を受けた経験のあるものもあり、そのような話を聞いたことがあるという範囲まで広げるとかなりの割合となり、決して遠い世界で起きていることではないという現状がある。また、特にインターネットの世界では、その匿名性から、偽りの情報を提示して、個人情報を入力させようとするサイトも数知れない。プレゼントと称して個人情報を集めたり、インターネットを使った通信販売（ネットショッピング）において、決済に使うためクレジットカードの番号を入力させたりするものもある。これら全てを否定

するわけではないが、最近は、フィッシングという騙すための巧妙に作られたサイトなども存在し、利用者は慎重にならなければならない。「送金したが、商品が届かない。」「届いた商品の内容が違っていたので、連絡を取ろうと思ったが、既にそのサイトはない。」など、大人でも騙される例が後をたたない。まして、生活経験のない子どもたちにおいてはなおさらのことである。私は、授業を通して、特にインターネットでの個人情報の入力には慎重になることを伝えたかったのである。

(2) 授業内容

私は「個人情報を守る」という指導目標を達成するために、次のような観点を持ち授業を構築していった。

個人情報の保護について、次の2つの観点が大切であると考えた。一つは、自分の個人情報の保護であり、もう一つは他人の個人情報の保護である。

まず、一つ目の自分の個人情報の保護であるが、自分自身の個人情報を必要以上に口外すると、思わぬ第三者に知られてしまうことになることがある。さらにそれが、良からぬ方向に行くということも考えられる。今でもあるのかもしれないが、ペンフレンド募集などの案内が雑誌に載っていた時代もあるが、今のネット社会においては、誰でもどこからでも世界中に向けて情報を発信することが可能になっている。発信する側の気持ちとしては、自分や友だち、そして、趣味や考えの合う仲間ぐらいしか見ることがないと思っているかもしれない。しかし、WEB上であれば、機械検索を利用することにより、悪意のある者が、そのキーワードによって、特定の趣味や考え方の人の情報を集めているという可能性もある。自分の記録のため、ほんの身近な友人同士のためと毎日綴られている最近はやりのブログなども、検索エンジンでいとも簡単に見つけられ、誰に見られているかわからない。考えようによっては、自分の部屋を24時間開け放しているようなものでもある。ホームページやブログで、自分の個人情報を掲載した場合（自分の個人情報を自分の判断でインターネットに掲載するのは何ら法的にとがめられるものではないが）、どこの誰に2次利用されるかわからないということを押さえておくことが大切である。したがって、自分や家族の住所、名前、生年月日、家族構成の個人情報を、安易にインターネット上に載せるものではない。このことを子どもたちに伝えていきたい。

二つ目は、他人の個人情報の保護である。自分の情報を自分の判断によってWEB上に掲載するのは、自己責任としても、他人の個人情報が、本人の知らない間に、WEBやメールで第三者に知らせられるのは、気分を害するものである。それも情報を発信しようとする者が親切心で行っている場合は始末が悪い。「応募者全員プレゼント」に友だちの分も応募してあげたり、ネット上のサークルに勝手に友だちを紹介してしまったりなどが考えられる。親切心そのまま結果として現れてくれれば問題がないのかもしれないが、見ず知らずの人からいきなり手紙が届いたり、電話がかかってきたり、などということがある

と、個人情報を送られてしまった人にとっては、気分がよくないものであり、友人関係にヒビがはいてしまうことも考えられる。さらに、その個人情報が第三者へ、流れ一人歩きするようになると、どんな迷惑がかかるかわからない。

さらには、個人や会社等を特定できるような表現で、その批判をネット上に書くことも重大な影響を及ぼすことがある。例えば、自分が食べに行ったすし屋のネタのイキが悪かったとか、商品に一部カビが生えていた、従業員の言葉遣いが悪かったなど、たくさんのが考えられる。これが相手方の耳に入ったら、最悪の場合、訴訟を起こされることにもなりかねない。

「口は災いの元」ということわざがあるが、特にネット上への情報発信については、その情報がどのように一人歩きするかわからないという危険性が何にも増して多いということを知らなければならない。そして、一度一人歩きし出したデータは決して回収することができないことも肝に銘じておくことが必要である。

特に以上述べてきたいように、インターネットを使った個人情報の発信については、他のメディアなどとの違いをはっきり知り、特段の配慮をしていかなければならないことを子どもたちに指導していくことが急務である。

以上の点を踏まえ、今回の授業では、インターネットを媒体として子どもたちが入力した個人情報が第三者の手に渡り、悪用させるというシミュレーションを通して、子どもたちに個人情報の保護について、その大切さを理解させようという構想を立てた。

・授業の構成

子どもたちにとって「個人情報の保護」という題材を提供しても、「個人情報」という言葉は聞いたことがあるにせよ、どのようなことかイメージができないだろうと考えた。そこで、個人情報を聞き出す不審電話が昨今話題に上ることが多いことにまず視点を向け、住所や名前を簡単に人に教えるのは良くないことであるということを経験させようと考えた。さらに、この個人情報をインターネットのHP上に書き込むとどのようなことになるのかということを経験させようと考えた。構想は立てたが、これだけの内容はどう考えても1時間には収まりきれないのは明白である。

そこで、私は2時間ものの授業とすることにした。

・1時間目の授業への思い

1 / 2の授業で、個人情報は何であるかを定着させ、子どもたちにとって身近である電話での個人情報を聞き出す二セ電話を題材につかしながら、自分ならどうするか考えさせた。

子どもたちにとって、二セ電話は、比較的身近な存在である。クラスで経験があるものは1割程度で、二セ電話の話聞いたことのあるという児童は5割を大きく超えた。私は

ニセ電話のシミュレーションを作り、子どもたちに聞かせ、自分だったらどのような対応を取るか考えさせた。ニセ電話については、教育大の学生さんたちに協力してもらった。スキットを3本用意し、5名に登場してもらい、子ども役2名、警察官役1名、給食センターのお姉さん役1名、宅急便業者の受付担当1で声優になってもらった。録音は5名がそれぞれバラバラの時間に来てもらい、自分のせりふだけ順に録音していった。録音にはコンピュータを使い、WINDOWSが標準で持っているサウンドレコーダーを使い、音声をつなぎ合わせて会話にしていっていった。特殊教育の上野さん、佐々木さん、太田先生、学校臨床の河村さん、幼児教育の徳永さんには、とても感謝、感謝である。

1本目は給食センターのお姉さんと称する人物が、小学校5年生の男の子を騙すという内容である。給食センターを名乗る女性が、その日の給食のこと、作って欲しいメニューなどで話を進め、子どもを安心させた上で、さらに調査を進めたいので友だちの住所を教えてくださいと子どもに迫ってくるものである。

2本目は、警察官を名乗る男性が、小学校5年生の女の子に母親が交通事故で大怪我をしており、すぐに父親に連絡を取りたいので電話番号などを教えてほしいと子どもに迫ってくるものである。

1本目は、ニセであることがはっきりしている。本校においても実際に給食センターを名乗る女性から電話があり、子どもがだまされてしまった例がある。報告を受けて、学校では、給食センターや役場、学校などの公の機関から、児童の家庭に個別に電話し、他の児童の電話番号などを尋ねることは絶対はないということを指導した。騙される例の復習というわけである。

ところが2本目のスキットは1本目とは、ちょっと違う。警察がニセであるか、本物であるか、私も決めないで作ったスキットである。もし、本当に母親が交通事故に遭ったとすれば警察は当然家族に連絡するであろう。手がかりが自宅の電話番号しかなければ、話が通じる子どもであれば、父親の連絡先を聞くであろう。子どもにとっては大きな葛藤である。個人情報に人へ話すのは慎重にということは親や学校から十分に指導を受けている。しかし、もし本当に母親が大怪我をしているのであれば、ガチャンと電話を切るわけにもいかない。

私は、「電話で個人情報は絶対に教えるな。」とは指導しない。あくまでも個人情報を人に話すのは慎重であってほしいことを指導していく。小学校5年生であれば、生を受けてこの世に10年である。その経験を最大限生かして考えて、件の警察のように、お母さんが本当に交通事故だと思って、警察にお父さんの連絡先を教えて、結果として騙されたとしても子どもを非難するものは何もないと考える。「騙されているかもしれない」ということをいつも頭の片隅に置きながら電話を受ける世の中は恨めしい。でも教育は現実即した当面する課題について、子どもたちに判断の基準や材料を与えていくという責務があるのである。

その一方で、騙されないためにはどうするのかという防御の方法も子どもたちには、知

らせていかなければならないと考える。今回の母親が事故に遭ったというような緊急の場合は無理かもしれないが、親のいる時にかけ直してもらうということも考えられる。また、一度電話を切って、「110」にかけ直すということもできるだろう。さらに、母親が携帯電話を持っていれば、その番号にかけてみるという方法もある。ナンバーディスプレイがついていれば発信者の電話番号がわかり、そこから判断するという手立てもある。現在ほとんどの警察は、代表電話の加入番号は、「0110」となっている。いずれにしても、とっさの場合、騙された子ども非難するものはない、騙すほうが悪いことは明確である。

以上の2つのスキットで個人情報発信の慎重さを学び、第三の課題となる。これは、宅配の会社から、児童の家庭に料金着払いの荷物がどっさり届いているという設定である。業者が曰くに不審であるから、警察に届けたいとのこと。さらに、その中に水でぬれて住所が分からないものがあり、それが誰宛のものであるか、確かめるのに、友達の住所を教えてほしいというものである。「警察」、「消防」、「教育委員会」などの言葉には子どもも大人もとても弱い。現に宅配便業者のホームページにもそのようなニセ電話に気をつけるような知らせが掲載されている。

以上のように、1時間目は、個人情報とはどんなものであるかを指導し、身近な電話での個人情報の聞きだしについて、みだりに個人情報を教えないこと、また、絶対に教えないということではなく、自分の経験から総合的に判断し、教えるか教えてはいけないかを決める判断力を育てることを願った。

・2時間目の授業への思い

子どもたちに個人情報の保護について語る時、インターネットでの個人情報流出について最初から指導していくには、ハードルが高いと判断した。なぜなら、インターネットの利用に関しては、家庭での利用があるかないかで非常に個人差が大きく、また、インターネットでの個人情報の保護について考えている児童はほとんどいないであろうと思ったからである。そこで1時間目に個人情報とは何か、そしてそれが誰ともわからない人に渡ってしまった場合どんなことが考えられるのかを、電話での聞きだしを使って指導した。個人情報の大切さがある程度理解できた上で、それでは本題でもあるインターネット上での個人情報の保護に入っていくことができたわけである。

インターネットでの個人情報の保護については、大方本人の情報の保護が中心となろう。現在では、インターネットを使っての会員登録、ショッピング、オークション、バンキングなど様々なサービスが展開されている。私は、インターネットの世界に入って10年以上経つが、これらのサービスはすばらしいし、自分自身も利用し、子どもたち(大きくなってからというものもある)にもおおいに活用してほしいと思っている。しかし、その中に、危険な面が存在することをしっかりと頭に置いておいてほしいのである。

この授業を構想したきっかけに、2004年に私が大学生に行ったアンケートのうち個人情報の保護に関するもので驚いた結果がでたこともある。それは、「個人情報の発信について

あなたはよく考えておこなっていますか。」という質問項目で、本学大学生の85%がほとんど考えていないと回答し、また、非常に考えている、考えているとの回答があわせて3%という結果がある。学生たちにとって、インターネットは安心できるものと考えられていることがわかる。誰でもそう信じたいところであるが、実際に、個人情報があるところで集められ、闇で売買される事件は後を立たない。インターネットは危険であるとはいいたくはないが、安全なものであると信じてしまうのは危険があまりにも多いということである。

さて、子どもたちの実態であるが、事前調査から、ほとんど子どもたちにとってインターネットは、ホームページを見て楽しむ程度で、そこから情報を入れて、相手に送るという経験を持つ子どもは少なかった。そこで、授業は2段階に分けてインターネットで個人情報を送る危険について指導することにした。

第1段階は、WEB上の「ネット社会の歩き方」を利用してインターネットを使って個人情報を発信することがどんなことであるかを学習した。このインターネットサイトは、独立行政法人 情報処理振興機構(IPA)、財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)が実施したEスクエア・プロジェクトで開発された成果として公開されている。(URLは <http://www.cec.or.jp/net-walk/>) このプロジェクトでは、子どもたちに、これからますます便利になっていくであろうネット社会について、安全で快適に過ごすための考え方やノウハウを学ぶための学習教材が多数用意されている。学習ユニットは次の通りである。

(1)インターネットで情報検索

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 01 無料ダウンロードは慎重に | 02 Webサイトの情報を活用しよう |
| 03 こんなWebサイトに気をつけて | 04 大人向けの情報に注意 |
| 05 危険な情報に注意 | |

(2)インターネットで情報発信

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 06 ネットで悪口は要注意 | 07 ネットで悪口が罪になる |
| 08 おもしろ半分では無責任 | 09 確かな情報を発信しよう |
| 10 住所や電話番号をおしえるのは慎重に | 11 個人情報は公開しない |
| 12 個人情報は大切なデータ | 13 他人の絵や文章のコピーは要注意 |
| 14 音楽データ交換サイトは要注意 | 15 コピーしてもいいの？ |
| 16 とばく行為は禁止 | |

(3)インターネットでコミュニケーション

- | | |
|------------------|-------------------|
| 17 ネズミ講は禁止 | 18 マルチ商法に注意 |
| 19 チェーンメールはカット | 20 スпамメールは無視 |
| 21 契約は慎重に | 22 ネット上のあぶない出会い |
| 23 携帯電話を賢く使おう | 24 チャットで個人情報は言わない |
| 25 チャットの危険性 | 26 電子掲示板の賢い利用方法 |
| 27 コンピュータウイルスに注意 | 28 他人になりすまして |

(4)インターネット・ショッピング

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 29 クレジットカードの取扱いは慎重に | 30 ネットショッピングの活用 |
| 31 雲隠れに注意 | 32 個人輸入は慎重に |
| 33 発注ミスに注意 | 34 ネットオークションの賢い利用方法 |

今回は、(1)の10「住所や電話番号をおしえるのは慎重に」を使った。このコンテンツで主人公は、面白そうなプレゼントのページから、個人情報を入力し、プレゼントの到着を待っていた。ところが数日後送られてきたのは、わけのわからない業者からのダイレクトメールの山、そして電話が鳴りっぱなしという状況に追いやられるというものである。うかつに個人情報を発信すると、それが一人歩きして第三者に渡ってしまうことを注意する内容である。子どもたちにこのコンテンツをそれぞれのインターネット端末から操作させ、一人にひとりに、主人公のどこに甘さがあったのか、どうしたらこのようなことを防げるかを考えさせた。

第2段階は、私の作ったニセホームページへの個人情報の入力である。私は子どもたちにショッピングな仮想現実を見せようとし、発信された個人情報が裏でどのようになるのかを、一つのシミュレーションとして全て子どもたちの目の前で、データ処理をしようと考えた。つまり、子どもたちがニセのホームページで騙され、個人情報を入力し、発信する。その情報が悪徳業者（今回は私のメールサーバー）へ電子メールとして届く。届いた情報について、必要な個人情報（氏名、住所、学年、性別など）のみをメール解析ソフトを使って、CSVの表計算の形式に変換させる。変換されたデータはラベル作成ソフト（ワード）を使って、タックシールに打ち出される。悪徳業者からの手紙（授業での中身は個人情報の保護の大切さをまとめたプリント）にタックシールが貼られ、本人へすぐに届く。という流れである。

のニセホームページであるが、私は、できるだけ小学生受けするようかわいらしく、しかも、怪しいページを何日もかけて作成した。そのホームページは玩具販売の会社が、子どもたちの放課後の様子をしるため、簡単なアンケートに応募し、ほしい商品を選び、最後に住所や氏名などを入れて送信するという流れになっている。入力フォームはできるだけ子どもたちが入力しやすいよう選択肢から選ばせたり、ラジオボタンを使ったりなどの工夫をとった。入力窓があってそこに必要なデータを入れたり、ボタンで選ばせたりして、それをメールで送るという技術はCGIが使われる。一見難しい技術であるが、フリーソフトで数々のフォームが出されていることから、それらを一部変えながら作ることで、比較的初歩の技術でも作成が可能と思われる。調査を行う場合、紙とインターネットとの比較は一長一短あるであろうが、インターネットを使った調査やアンケートでは、時間や用紙配布、回収の手間をかけず、また、インターネットさえつながれば、場所を選ばず行うことができるので、情報教育を推進する者は身につけておきたいスキルの一つであろう。

のメール解析であるが、今回は、松江市在住の山本隆氏作成のシェアソフトである。（<http://www.gesource.jp/>）このソフトは、今回私が使った Outlook Express をはじめ、代

表的なメールソフトから、文字列をデータとして抽出し、CSV ファイルにするソフトである。Web ページのフォームからメールで送られてくる大量のデータを簡単に CSV ファイルにでき、エクセルなど CSV 対応の表計算ソフトなどを使った集計が容易になる。このソフトを使うことで、住所や氏名などを表の形で取り込むことができ、容易にデータの操作ができるようになるわけである。

の CSV ファイルからのタックシール作成は Microsoft のワードを使った。ラベル印刷がツールとして容易されているので、それを使って、A4 のタックシール用紙に集められたデータを印刷していった。これもいくつもの手順があり、本番で失敗しないように、何度も練習して授業に備えた。

私は、 の場面から、白衣をまとい、悪徳業者に扮して、集まってくる個人情報満載のメールにニヤニヤしながら、情報操作を行い、悪徳業者発のダイレクトメールに発送に取り掛かるといふ一連の流れを子どもたちに見せた。データの処理状況は、教師用のパソコンの画面を、液晶プロジェクターを用いて映し出し、子どもたちに絶対見ることのできないであろう裏の情報処理を見せようとしたわけである。

繰り返すが、私はインターネットを使って個人情報を送り、買い物をしたり、会員登録を済ませたりするなど、積極的な活用はどんどん推し進めていきたいと考える。しかしその中には、「このサイトは大丈夫かな。」「この会社はどんな会社なんだろう。」などという警戒の目をどこかに、でもしっかりと持って、情報社会の落とし穴に陥ることのないような次代の担い手を育てたいと考えたわけである。

このような願いを持って、今回の授業の構想をたてていった。

(3) 学習指導案

総合的な学習（情報教育）指導案

日 時 平成 17 年 11 月 25 日(金) 第 5 教時
児 童 上磯小学校 第 5 学年 1 組
男子 16 名 女子 17 名
指導者 T 1 教諭 佐々木 朗
T 2 教諭 附田 勇人

1. 題材 個人情報保護の大切さを考えよう

2. 題材について

本年 4 月に個人情報保護法案が施行されたように、近年個人情報の保護に対する意識(プライバシーの保護)が急速に高まっている。また、住所、氏名、年齢などの情報の情報が価値を帯び、売買の対象となっている。それらの情報は、デジタル化され、分類・加工され、ダイレクトメール、訪問販売、電話勧誘など、発信者の遠く及ばない人手に渡り、回収不能となっている。

このように個人情報が価値を生むことで、心無い業者はあの手、この手で、個人情報を集めようとしている動きがある。本校においても、運送業者を装い、言葉巧みに子どもたちを騙し、同級生の連絡を聞き出そうとするなどの事件も報告され、決して他人事にはない状況になっている。

一方、私たち一人一人も「自分の情報は自分で守る」ことを基本に、個人情報を外に公開していくことは、よく考えてからしていく意識を持つようにすることが大切である。特に、今急速に発展しつつあるインターネットの社会でも、無料プレゼント、抽選で賞品が当たるアンケートなど、様々な形で個人情報を書き込んでしまうケースがある。これらの行為全ての否定することではないが、とりわけネットからの入力=デジタル情報であるため、葉書や電話と違って、利用されやすい情報だということを肝に銘じておかなければならない。

こと、子どもたちにとっては、「自分の名前や住所を教えない。」という指導は、「人を信じない」ということにもつながりがちであるが、昨今の事故や事件をもとに、「自分の身は自分で守る」ことを指導していきたい。

この題材では、次の教材を用いる。

独立行政法人 情報処理振興機構(IPA)、財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)が実施したEスクエア・プロジェクトで開発された成果として学習用にWEB上に掲載されている「ネット社会の歩き方」の「住所や電話番号を教えるのは慎重に」という教材。

筆者が独自に開発したニセ「小学生プレゼント」のWEBサイト。この教材は、簡単な勉強に関するアンケートに答えると、プリン、ケーキ、カメラ、パソコンのプレゼントが当たるという名目で、子どもの個人情報を引き出そうとしている。データは、筆者へメールで送られる仕組みになっている。

これらの教材を利用しながら、児童に個人情報の保護の大切さについて、指導していく。

3. 渡島視聴覚教育研究会の研究テーマとその設定理由

(1) 本研究会の研究テーマ

視聴覚機器の効果的な活用のあり方を探る

～新しい情報機器の特性を生かした実践を求めて～

(2) 研究テーマ設定の理由

遠い未来、人類の歴史をひもどいた時、「農業革命」、「産業革命」に追随して、この20世紀後半から21世紀にかけては、「情報革命」と呼ばれる日がやってくるに違いない。テレビ、ラジオを通して、日本の、そして世界の地域で突然起こった事件・事故があったという間にお茶の間に届く時代となっている。

振り返ってみると、1925年に日本で初めてラジオ放送が開始された。また、1953年にはNHKによりテレビの本放送が開始された。これらテレビ・ラジオの普及により、私たちの生活は、かつてなかったほどの情報をいながらにして入手することができるようになった。さらに、20世紀末のマイクロソフト Windows95 の出現と一つの大きな契機として、コンピュータが企業ばかりではなく一般家庭にも広く普及し始めた。それに追随する形で、視聴覚機器もデジタルカメラやデジタルビデオカメラも一般ユーザーが手に入れることができる価格になり、手軽に使えるメディアとなった。

一方、当研究会は、紙芝居やOHP、アンサーボックス、ビデオカメラ、教材提示装置など、授業を効果的に進める上で、子どもたちに視覚的、聴覚的に情報を提供する機器の活用方法を柱の一つとして研究してきた。また、学校放送をどのように効果的に授業に取り入れていくかについても、もう一本の柱として、関係団体と連携を取りながら研究を進めてきた。

さて、前述のようにコンピュータを中心とするマルチメディアの情報機器が学校現場にも入ってきている今、それらを中心とする研究に目を向けていくことが求められている。また、学校放送においても、インターネットを介して、テレビとコンピュータが融合するような形で使うことでより高い効果が得られる番組が増えている。

以上の学校を取り巻く視聴覚機器の変化を鑑み、研究主題を「視聴覚機器の効果的な活用のあり方を探る」とし、特に、コンピュータを中心とする新しいメディアの研究及び授業実践にも力を入れていくべく副題として「～新しい情報機器の特性を生かした実践を求めて～」を掲げた。

新しい情報機器については、一部の先生が先進的に研究を進めている一方、機器の操作

方法への不安から、新しいものへの挑戦に二の足を踏んでいる先生も多いのが現状であろう。コンピュータの操作にしても、以前は、キーボードから操作命令を直接入力していたが、現在では、マウスで画面をクリックすることにより操作が開始されるなど、操作性も向上し、特別な技術を習得しなくても、十分に技能を修得できるものとする。したがって、当研究会の今年の柱として、実技講習会を実施し、会員及び広く管内の教職員に新しい視聴覚機器の操作方法や授業での利用形態などを実技講習会として、広く知らせ、視聴覚教育のより一層の発展をめざしていく。

4．研究テーマと授業との関わり

前述のように、コンピュータが学校現場に導入され、現在積極的に利用されている。今回は「総合的な学習の時間」で情報教育の内容の授業となる。情報教育の目標は、情報活用能力を育成することである。文部科学省では、この情報活用能力として以下の3点を掲げている。

情報の科学的な理解

情報活用の実践力の育成

情報社会に参画する態度

本研究会のテーマ「新しい情報機器の特性を生かした実践」は主に に関わっての活用になろう。児童に積極的にコンピュータを利用させ、自分の持った課題を解決するために、調べ、それをまとめ、また、発信していくという力を育成しようとするものである。一方の裏には、気をつけなければならないところがある。主題設定の理由のところでも述べたように、インターネットを過信して、個人情報を不用意に発信することにより、そのデータが発信者の知らないところで売買される結末を仰ぐことも十分にありえる。したがって、子どもたちには、便利なインターネットを積極的に活用（情報社会の光の部分）することを指導すると共に、今回の個人情報の漏洩をはじめ気をつけなければならない部分（情報社会の陰の部分）についても指導をしていかなければならない。

今回の授業は、研究テーマに沿い、情報機器を積極的に利用しながら、情報社会で気をつけなければならない、 の情報社会に参画する態度の育成を主にしている。

5．指導目標

個人情報とその保護についての重要性に気づく。

個人情報を守るための具体的な方策について理解する。

自分の個人情報を守るとともに他者の個人情報も尊重し保護する態度を育てる。

6．指導計画（2時間）

(1)身近なところでの個人情報がねらわれていることを知り、気をつけようとする態度をもつことができる。

(2)インターネットにおける個人情報の書き込みに危険性について知り、気をつけようとする態度をもつことができる。

7. 展開 (研究授業は2 / 2)

(1) 本時の目標 (1 / 2)

身近なところでの個人情報がねらわれていることを知り、気をつけようとする態度をもつことができる。(1 / 2)

(2) 本時の展開

学習活動	教師の支援
<p data-bbox="236 725 1254 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">個人情報の保護について学習しましょう。</p> <p data-bbox="228 797 600 833">(1)個人情報とは何か確認する。</p> <p data-bbox="228 893 767 1021">(2)事前調査の個人情報の聞き出しに関するアンケート結果を知る ・体験例を出す。</p> <p data-bbox="228 1084 432 1120">(3)スキット1を聞く</p> <p data-bbox="236 1137 762 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">あなたが、真由美さんだったら、名前や電話をお姉さんに教えると思いますか。</p> <p data-bbox="228 1276 643 1357">・「 」、 「 × 」の札を上げる。 ・教える理由、教えない理由を発表。</p>	<p data-bbox="818 797 1367 833">・ 氏名、誕生日、住所、電話、親の名前など</p> <p data-bbox="818 893 1035 929">・ 調査内容の確認</p> <p data-bbox="818 990 1367 1070">・ 話が出なければ、身近な例を教師側から話す。</p> <p data-bbox="818 1084 1074 1120">・ テープで聞かせる。</p> <p data-bbox="818 1276 1367 1404">・ 双方の意見を聞く。「教えない」に偏った場合、「親切にしないでいいのかな。」とゆさぶりをかける。</p>
<p data-bbox="236 1469 1318 1574" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">最近、家族のことや友達の住所や電話番号を聞き出そうとする嘘の電話も多くなっています。電話番号や住所などを人に教えることは慎重にすることが大切です。</p> <p data-bbox="228 1659 437 1695">(4)スキット2を聞く。</p> <p data-bbox="236 1713 770 1818" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">あなたが、美香子さんだったら、名前や電話を警察の人に教えると思いますか。</p> <p data-bbox="228 1852 695 1933">・「 」、 「 × 」の札を上げる。 ・教える理由、教えない理由を発表する。</p>	<p data-bbox="818 1852 1367 1980">・ 自分の生活経験に照らして、本物と思う場合は、情報を伝えるだろうし、怪しい場合は本物かどうかを確かめることが必要と</p>

<p>・怪しいと思った場合はどのようにすればいいだろうか。 (5)スキット3を聞く。</p> <div data-bbox="236 517 770 622" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あなたが、文雄君だったら、どのように答えますか。</p> </div> <p>・ワークシートに自分でどのように答えるか記入する。</p>	<p>いう方向性を出す。</p> <p>・怪しい場合は安易に友だちの住所を教えない答え方を指導する。</p>
<div data-bbox="240 790 1302 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あやしい電話を受けた場合は、家の人に代わってもらうとか、親のいる時にかけなおしてもらう。また、急ぎの時は、相手確かめるなど必要な場合もあります。</p> </div>	
<p>(6)集められた情報について考える。</p> <div data-bbox="236 1003 770 1108" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>集められた住所や名前などの情報は、どうなるのでしょうか。</p> </div> <p>・意見を発表する。 ・ダイレクトメールや、訪問販売などのデータになることを知る。 ・個人情報保護法が今年の4月より実施され、データが集めにくくなっていることにも触れる</p>	<p>・名簿にする、手紙を出す、セールスに使うなどの意見が予想される ・ダイレクトメールの山を見せる。</p>
<div data-bbox="236 1413 1326 1565" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>個人の住所や名前を集めて、手紙を出したり、訪問したりして、商売をしようとする人がいます。また、情報を集める専門の会社もあります。いやな思いをしないよう相手に住所や名前を教える時には十分注意しましょう。</p> </div>	
<p>(7)授業でわかったことをまとめる。</p> <p>(8)ワークシートに本時の感想を書く。 (9)次時の予告</p>	

(3)評価

- ・ 個人情報がどのようなものかを理解できたか。
- ・ 個人情報を聞き出そうとする怪しい電話や訪問に対しての適切な対応方法がわかったか。
- ・ 流出した個人情報がどのように扱われるかがわかったか。

(1) 本時の目標 (2 / 2) 本時

インターネットにおける個人情報の書き込みに危険性について知り、気をつけようとする態度をもつことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	教師の支援
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">インターネットでの個人情報の扱いについて学習しましょう。</p>	
<p>(1)導入課題について考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">インターネットで、自分の住所や名前を書き込んだ経験はありませんか。</p> <p>・経験を発表する。</p> <p>(2) 学習モジュールで課題を的確に知る。 パソコンごとに、学習モジュール「個人情報の発信は慎重に」を見せる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">問題 1 主人公の行動で何が問題だったのか 問題 2 結末のようなことを防ぐためにどのようなことに気を付ければいいのか。</p> <p>(3)個人で、また、パートナーと話し合った内容を発表する。</p>	<p>・アンケートの結果を P P T で見せながら。</p> <p>・どんな時に書き込んだのか。また、その後どうなったか。</p> <p>・液晶プロジェクターを用いて学習モジュールを表示の仕方を教える。</p>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">問題 1 主人公の行動で何が問題だったのか 問題 2 結末のようなことを防ぐためにどのようなことに気を付ければいいのか。</p> <p>(3)個人で、また、パートナーと話し合った内容を発表する。</p>	<p>・内容をワークシートに書き込ませる。</p> <p>・相手はどこのだれなのか、書き込んだ情報がどこに流れるかわからないことを理解する。</p>
<p>(4)インターネットでの書き込み体験をする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">インターネットに、実際にプレゼントのホームページに書き込んでみよう。</p> <p>・個々にインターネットを開き、応募してみる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">問題 3 どんなところが怪しかっただろうか。</p> <p>・怪しいところがどんなところかを発表する。</p>	<p>・偽ものであることを知らせ、書き込んだ情報が他に漏れないことを確認する。</p> <p>http://www.hakodate.gr.jp/sasaki/sonota/present/</p> <p>・このアンケートで何がわかるのか。会社はどこにあるのか。など</p>

<p>(5) 収集されたデータについて学習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">住所や名前その後どうなっているだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・悪徳業者のパソコンで何をしているかを知る。 ・悪徳業者からの児童宛の手紙を配る。 内容は個人情報保護に対する注意点のまとめ <p>(6) 授業でわかったことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師により、集められたデータがパソコンで加工され、ラベルとなって出てくることをスクリーンで見せながら、実演する。 (doteconverter excel word の利用)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>パソコンを利用して書き込まれた個人情報は、いとも簡単に使われやすい形になります。書き込むホームページが本当に大丈夫なのか、よく確かめることが大切です。また、クレジットカードの番号などは、子どもは絶対に書き込んではいけません。</p> </div>	
<p>(7) ワークシートに感想を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">感想 授業でわかったことや感想をまとめよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表させる。

(3)評価

- ・インターネットでの個人情報の書き込みがどんなものであるかがわかる。
- ・インターネットを使った個人情報の書き込みはいとも簡単にデータベース化され、第三者に渡る可能性があることがわかる。
- ・インターネットでの個人情報の書き込みが危険であり、十分に気をつけないとわからないことがわかる。

個人情報ワークシート

name()

・個人情報にはどんなものがありますか。

[]

・あなたが文雄君だったら、どのように答えますか。

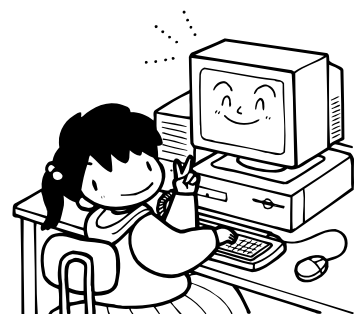
[]

・あつめられた住所や名前などの情報は、どうなるのでしょうか。

[]

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

[]



個人情報ワークシート

name()

- ・問題1 主人公の行動で何が問題だったのか。

[]

- ・問題2 結末のようなことを防ぐためにはどのようなことに気をつけなければならないのか。

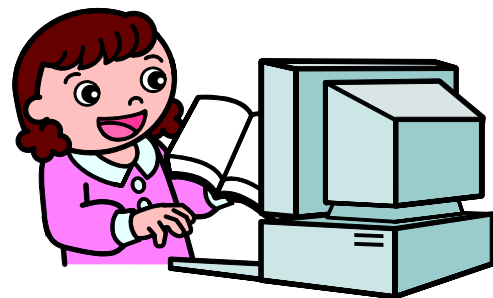
[]

- ・問題3 どんなところがあやしかったのだろうか。

[]

- ・感想

[]



住所や電話番号を教えるのは慎重に ～ 個人情報保護～

個人情報とは

個人情報とは、個人を特定する情報です。
氏名、住所、性別、生年月日、家族構成、職業、電話番号など
銀行の口座番号や暗証番号なども個人情報です。

怪しい電話や訪問に注意

- ・あやしい電話を受けた場合は、家の人に代わってもらうとか、親のいる時にかけなおしてもらおう。また、急ぎの時は、相手確かめるなど必要な場合もあります。

個人情報がもれていやな思いをしないように

- ・個人の住所や名前を集めて、手紙を出したり、訪問したりして、商売をしようとする人がいます。また、情報を集める専門の会社もあります。いやな思いをしないよう相手に住所や名前を教える時には十分注意しましょう。

パソコンでの個人情報送信は特に慎重に

- ・パソコンを利用して書き込まれた個人情報は、いとも簡単に使われやすい形になります。書き込むホームページが本当に大丈夫なのか、よく確かめることが大切です。また、クレジットカードの番号などは、皆さんは絶対に書き込んではいけません。



(4) 授業の成果

渡島情報教育研究会と渡島視聴覚教育研究会の両方に所属しており、今回の授業は、渡島視聴覚教育研究会の研究授業として行った。

今回は、私の勤務校ではない学校で授業を行った。他校で授業を行うということは、いくつかのハードルがある。一番大きいのは、子どもたちと初顔合わせで授業を行うということである。私もこのようないわゆる「飛び込み授業」をするのは初めてであり、ドキドキであり、その気持ちは子どもたちにとっても同じものがあると考えられる。でも、小学校5年生は、藤城も上磯も同じ。私の今回考えてきたことを子どもたちの心にス



上磯小5年生の子どもたち

トンと落ちるようがんばろうという思いで授業に臨んだ。もう一つのハードルは、コンピュータの設定などである。自校の場合は、コンピュータのメンテナンスは私が全て行っているため、マシンの設定も、プログラムのインストールも自由に行い、授業が終わったらデフォルトに戻すという作業をすることができた。しかしながら、人様の学校ではそうはいかない。先方の了解をもらいながら、授業で使うホームページを「お気に入り」に登録し、教師用のマシンに、メールを登録し、受けることができるようにし、さらに、メールの処理、タックシールの印刷など一連の流れがスムーズに行うことができるよう設定をしていった。どうにか、一連の学習活動の流れがスムーズになったのは授業前日の夜9時を過ぎていた。

当日は、5年1組の担任の附田先生とのチームティーチングで行った。あとのアンケートを見ると附田先生は「北海道の中でもすごい先生が教えてくれるんだよ。」みたいなことを言われていたようで、お恥ずかしい限りではあるが、子どもたちも目を輝かせながら、コンピュータ室に入ってきた。附田先生には、主に子どもに指名をする役をしてもらった。とても活発なクラスで、積極的に手が挙がるクラスであった。ふだんの指導はこのようなところでも出てくるものであるとつくづく感じた。

「最初の個人情報とは何か。」でも様々な意見が出た。住所、氏名はもちろんのこと、趣味、血液型など、私も判断に迷うようなものも出て、ずいぶん盛り上がり、時間をとってしまった。

個人情報とは何かをしっかりと押さえた上で、スキットへと入っていった。スキット2の母親の交通事故でも、ほとんどの児童が、「父親の連絡先を教えない。」と答えた。どのように対応するかと



「個人情報とは何か」でたくさんの意見が

いう発問に対しても、「ナンバーディスプレイで確認する。」「母親の携帯電話にかけて連絡をとってみる。」など論理的に考える発言が数多くでた。私はこのスキットでは半数ぐらいが、「教えてしまうかもしれない。」という選択を予想していたが、子どもたちの考えはかなり厳しいものであった。私は、「先生がこのスキットを作ったのは、偽物だと決めて作ったわけではないのです。もしかしたら本当の場合だってあることも十分考えられます。皆さんが発表したように、本当なのかどうか確かめられる状況であれば、確かめるにこしたことはないです。でも、実際に



個人情報を教えてしまった苦い経験も

警察を名乗ってこのような電話がかかってきたら、決して冷静に発表したようなことができるかどうか分かりません。もし、仮にそのような電話を受けたとしたら、あなたたちが生まれて10年間生きてきて、その中で身につけてきた体験から判断して、これはお父さんの連絡先を話したほうがいいと思ったら、しゃべって構わないんだよ。事故は本当かもしれないし、

そうすれば一刻も早くお母さんにところに駆けつけることができるんだからね。そしてね、もし、この電話が全くの嘘で君たちが騙されたとしても、君たちは悪くはない。騙す大人が悪いんだから。いいかい、何かこういう電話などに出遭ったら、何でも『教えない』でなくて、時には逆に話さなければならない場合っていうのもあるんだよ。難しいかもしれないけど、自分で判断して決めなければならないこともあるからね。」と話をした。

少しでも子どもたちと時間を共有したいと思い、昼食は給食、それも5年1組の子どもたちと、子どもたちの班に入れてもらいながら、ひと時を過ごした。給食でも個人情報のことが話題になって「成績はどうなんだ」という話が出た。4時間目の授業ではなかったが、まさしく個人情報である。



30名近い先生方が来て、子どもたちより私の方がドキドキ

5時間目が研究授業となる。昼休み頃になると、次々と授業を参観される先生方がやってきた。大学生も何名かやってきてくれた。私はその年、現職の小学校教員であり、また大学院生であった。この立場にいて、とても思うのが、これから教員を目指す学生さんたちに、できるだけ多く教育の現場を見てほしい。そして、教員の卵という段階でありながらも、現職

の先生が行う授業を見て、思ったこと、感じたことを発表してほしいと常々思っている。私は、これからも、先生方に参加してもらおう研究会や講習会には是非、学生にも案内していきたいし、また、現職の先生も、次代を担う学生たちに、現場の様子を見る機会を多く与えられるよう案内を回して欲しいものと思う。大学と学校現場のパイプをしっかりとって、教員養成をしていくことが大切だと考える。今回の授業においても、私の電子メールのアドレス帳に入っている全ての学生さんに案内を出し、数名がやってきてくれた。私にとっては、とても嬉しい授業である。

再びコンピュータ室に5年1組の児童32名が集まり、児童と同じ数ぐらいの先生方、教育大の学生さんを迎え授業が始まった。参観者が多いと確かに緊張する。授業の反省では一言一言が吟味され、質問や意見が上がってくる。まさに緊張である。その一方で、子どもたちの前で、そして先生方の前で、スポットライトを浴びたスターのように、情報教育を語ろうとする自分を感じていた。緊張ではあるが、なかなかいいものでもある。

インターネットへのアクセスは、子どもたちもふだんの授業で使っているだけあってスムーズに開くことができた。ネット社会の歩き方で、問題点を調べる課題では、マウスを使って、画面を行ったり、戻ったりしながら、答えを探していた。大勢の中で、私と同じくらい子どもたちも緊張しているのだろうと思ったが、前の時間同様、子どもたちは積極的に発言をし、授業が盛り上がっていった。

いよいよ授業のメインであるニセホームページへの入力である。子どもたちには、前の時間に個人情報、軽々しく人に教えるものではないと教えた。それにも関わらず、ニセのホームページへ子どもたちの個人情報を入力させようとしている。私は子どもたちに、「皆さんが入力した個人情報は、先生のコンピュータ以外に絶対に出回ることはありません。個人情報を人に教えることは慎重にしなければなりません。今回は先生を信じて、入力して下さい。先生は授業が終わったらすぐに情報を消しますから。」と伝えてから授業に入った。



ニセホームページを見る子どもたち

入力段階では、個人情報入力の前に簡単なアンケートがある。放課後の遊び、家での勉強時間、好きな教科、嫌いな教科などの項目に子どもたちは楽しく答えていた。また、当たるはずのないことがわかっているプレゼントに対しても、プリンにしようか、デジカメにしようか、迷っていた子どももいた。

いざ、個人情報の欄にたどりつくと、子どもたちの顔つきも幾分真剣になってきた。郵便番号、都道府県、住所と入力していく。なれていない児童には、周りの先生方も応援してくれた。私もその時間個別指導に回った。そして、氏名、学年、性別を入力すると、最後に「送信」と「リセット」のボタンがある。巡視をしながら、「送信」の上でマウスが止まっている子どもがいた。「その『送信』ボタンをクリックしてね。」と指導すると、「先生、なんだか、ボタンを押すのがドキドキしちゃう。」と答えてくれた。私は、「そのドキドキしたという気持ちはとっても大切なんだよ。インターネットを使う時はこの気持ちをずっともってね。」と優しく声を



自分の住所や名前を入れ、「送信ボタン」をクリック

かけた。早く終わった児童は、プリントをまとめる作業にかかり、最後の一人も無事送信ボタンを押した。先生用の画面には、メールの着信状況がリアルタイムに表示されていた。

私は白衣に着替え、「それではみなさん。」という強面の声で、子どもたちに語りかけた。しーんとしてこれから何が起きるんだろうという表情で、みんな興味深深に私を見ている。

私はメール集計ソフトを立ち上げ、子どもたちのパソコンから届いた個人情報の入ったメールを一瞬にして解析した。一覧表になって出る自分たちの住所・名前。子どもたちからは、「わあー」という驚きの声があがった。悪徳



白衣に着替え、悪徳業者を演じた。スクリーンには、住所の一覧が。

業者から真顔の先生の顔になり、「手で書いたはがきは、悪徳業者が、がんばってパソコンに入れていかなければならないけど、メールできたら一瞬でこんな形になっちゃうんだよね。」と説明し、再び悪徳業者の顔に。

今度は、タックシールの作成。ワード、エクセルは私の得意とする領域であり、練習を

積み重ねたことにより、あっという間にタックシールの様式にデータが編集されていった。名前の漢字がなかなかなくて平仮名で入力した子のは、そのまま平仮名ででており、まさに自分の入れたデータだと確認された。印刷ボタンを押すと、子どもたちの住所が入ったラベルがすぐに出てきた。さっそく、頼んでおいた悪徳業者の子分役のアシスタントの先生に事前に準備しておいた封筒



悪徳業者から、子どもたちに手紙が届く

筒に入った手紙にラベルを貼り、子どもたちへと配達した。

このテンポで集められた個人情報が処理されていく過程を見たのは子どもたちは初めてだったに違いない。また、授業を見ている先生にとっても同じであったらと思う。

授業の最後に子どもたちに感想を書いて、数人に発表してもらった。そのいくつかを資料として添付する。



話し合いでは、「こわさ」について話題が。

私は2時間目のメインの授業の子どもたちにとってもキーワードは「こわい」であり、「すごい」であると分析する。送信ボタンを押すのをちょっとためらっていた女子児童の「こわい」という気持ち、また、自分たちの個人情報が一瞬に一覧表になってまざまざと見せ付けられる、「こわさ」、そして「すごさ」を知る授業だった。

(5) 授業の反省

初めて会った子どもとの授業は、緊張であり、また、新鮮なものであった。以下に授業をしてみた感想、また、話し合いの論点の中から、情報教育の今後のあり方について論じる。

1. 授業全般について

授業の良し悪しは、普段の学級経営にあると言えるが、まさにこのことがプラスの方向に出た。話を集中して聞く力、積極的に話す力、作業に真剣に向かう意欲など、すばらしいものがあった。

私は、この学級を担当する附田先生のすばらしい学級経営のもと、授業を行うことができた。冒頭の言葉を身にしみて感じたわけである。

発言も活発で、授業の内容のところで述べたように、授業の始めの「個人情報とは何か」で大いに盛り上がり、予定時間を大きく越えてしまった経緯となる。

2. 授業の流れについて

(1) 授業の内容量

今回は、情報モラルのうち個人情報の保護について扱った。授業 2 時間を使った。1 時間目は、児童にとって身近である二セ電話での個人情報の聞きだしについて扱い、2 時間目は、私の研究の本題でもあるインターネットを使っての個人情報の保護について、実際に二セホームページに個人情報を記入させた。

当初は、何とか 1 時間の授業でまとめようとしたが、子どもたちのインターネットでの個人情報の入力についての経験のなさを考えると、今回の実践のように 2 時間の授業で扱うことは妥当だったと考える。

また、授業後に行われた話し合いの場面で、情報モラル一般について、広く指導した方がいいという意見が出た。情報モラルは、情報の価値や、情報の発信、利用、コミュニケーション、ショッピングなど子どもたちに指導すべき内容が多岐に渡る。今回は、情報の発信の中の個人情報について扱った。子どもたちにいろんなことを教えたいのは山々であるが、焦点がぼやけてしまうことを考えると、今回のようにとても狭い領域ではあるが、絞って授業を行ったことは妥当だったと考える。

さらに、述べたように情報モラルについては、まだまだ指導しなければならない分野がたくさんある。今回の個人情報の保護だけではなく、大切なものは計画的に指導していく必要があるのは自明である。

(2) 授業の流れ

事前調査の結果から、子どもがインターネットと通してアンケートや会員登録、プレゼントなどに自分の名前を書き込んだことがあるという経験を持つ子は少なかった。一方、

私が今回の授業で訴えたかったのは、インターネットを通しての個人情報の書き込みへの危険性である。子どもたちが私の持っている目標をクリアしていくためには、それなりの小さなステップを要する。

・ニセ電話

述べたように今回の授業は2時間を1セットとし、その1時間目に、個人情報とは何か、そしてなぜ大切なのかを説いた。さらに、子供たちにとっても身近な問題として認識されているニセ電話のスキットを通して、実践的に学習を進めた。ニセ電話については、本校でも同じような手口が校下の家庭から報告があり、また、授業を行った上磯小学校でも同様の電話についての報告が上げられ、子どもたちの警戒意識も高くなっていた。その結果として、子どもたちは授業に食いついてきて、その対応に対する意見も活発に出された。

授業のねらいのところでも述べたが、警察から母親の交通事故での重症を知らせる電話では、子どもの多くが父親の携帯番号や住所などを話してしまうと思っていた。また、そうあるべきではないかと思った。しかしながら、ほとんどの児童は、警察からだと言えども、簡単に情報は流さないと答えた。万が一このような場面に遭遇したら、このようになるかどうかは別として、警戒心があまりにも強いということで、人間不信というか、悲しい気持ちになったが、これも現実に対処していく知恵と言っていいのだろうかと感じた。その中でも、しっかりとその事実を確認しようとするという意見が出され、子どもたちのしっかりさを感じることができた。授業の中で、私は、個人情報の保護について、全ての電話に対して否定するものではなく、自分のあらゆる経験をもとに的確に判断してほしいということを強く言った。

情報教育は「情報活用能力」の育成にある。情報活用能力の中には、得られた情報を自ら判断することも能力である。困った場合、どうすればいいか自分で判断を迫られた場合、自分の考えで決断するという能力である。母親の交通事故を知らせる電話に遭遇した場合、冷静に確かめるのも、信じて情報を伝えるのも、子どもたちが自分で正しいと思って判断したことであれば、それが、間違いの方向であり、重大な結末を招いたとしても、それが攻められるべきものではないであろう。そして、その子にとっては、また、一つの経験が増え、次に何か判断を迫られた場合に、前の経験が生きてくるということにもつながってくるのであるから。

・ニセホームページ

個人情報を簡単に漏らしてはいけないということがわかった上で、インターネットに自分の名前を書き込ませるといふ、子どもたちにとっては、ちょっと「こわい」経験をさせることになる。私は、この「こわさ」の体験が今回の授業のキーポイントだとも思っている。今は、WEBから買い物、会員登録、懸賞応募など、様々な形で、個人情報やそれに関わるような情報を送ることができる時代である。同意書を読まない、また、何も警戒心なく送信ボタンを押してしまうなど、慣れっこになっていると、誰でも経験していることであろう。その一方で、見たことも聞いたこともないような会社から、ダイレクトメー

ルが届く。また、物売りの訪問や、勧誘の電話がかかってきたりする。また、公的機関を語る「債権取立て」などの脅しとも思われるハガキが舞い込んできたりする。これらが、インターネットなどによる情報の漏洩によるものか定かではないが、その可能性はいくらかでもあるということは間違いない。

私はこの個人情報を入力させるに当たって、あくまでも私が作ったホームページであり、データは私以外に流れることはないこと、授業が終わったら全てのデータを削除することの2点を伝え、子どもたちに、自分の住所、郵便番号、名前、学年、性別を記入させた。子どもたちは、楽しそうにアンケートに答え、ニセのプレゼントを選ぶのに悩みながら入力をしていった。住所や名前を入れていくと、一番下に「送信」と「リセット」のボタンがある。入力情報を確かめて、子どもたちは最後にこの送信ボタンを押すことになる。机間巡視をして、最後まで、入力し終わって、一呼吸おいている児童がいた。私は、「終わったら、この送信ボタン押してね。」と声をかけたら、「先生、何かちょっとこわいような。」ってつぶやいた。この言葉は今でも私の耳に残っている。また、後に掲載している子どもたちの感想を見ても、「楽しい、勉強になった」というものが多かったが、「こわかった。」というのも何名かからあった。私はこの授業で子どもたちをこわがらせるつもりはなかった。でもこの「こわい」という感覚を子どもたちが、この授業を契機として持ち続けてくれたならば、この授業のねらいは十分に達成されたと思う。

さらに、私は、ネット上の個人情報の流出が概念だけではなく、実際どのようにして行われるのか、私なりにデータの流れを考えながら、子どもたちの前で、悪徳業者に扮して、その全てを画面上で見せた。この実践は、今まで聞いたことがないものであり、全国的にも初めての実践ではないかと思う。子どもたちがニセホームページから入力した個人情報は、電子メールとして私のアドレスに届く。子どもたちにもメール画面で、データが刻々と集まってくる状況を見せた。子どもたち全員のデータが届いたのを確認して、それを一覧表に読み込んだ。集計用ソフトを使うと、メールのデータが一瞬にして表(CSVファイル)の形式になる。この授業では子どもたちに見せなかったが、表形式になってしまうと、フィルタリング(必要なデータを条件によって絞っていくこと)により、性別や、学年、また、特定の住所などを絞っていくことが可能となる。今回のアンケート項目にはなかったが、趣味・嗜好などの情報があれば、十分「売って金になる情報」になっていく。

私は、子どもたちに、「自分たちの学級のみみんなのことだから、ここで一覧表をちょっと出してみるよ。」と断って、一覧表を提示した。本当は、内部とは言え、こうやって子ども達の住所一覧を出すのは、批判が出てきそうなところでもあったが。子どもたちは目を丸くして見ていた。名前をひらがなで入れた児童のはそのまま出てきて、何とも今の授業で入力したという感じが出ていた。

それに続いて、子どもたちの住所、名前を打ち出したタックシールを貼った悪徳業者からの手紙(本当の中身は、個人情報について気をつけることのまとめ)を子どもたちにその場で届けた。タックシールの印刷は、慣れてしまえば、いとも簡単にできる。私はMicrosoft

のワードの宛名ラベル印刷機能を使い、これも様子をスクリーンに映し出しながら、実演してみせた。名前の最後に「様」をつけ、名前のフォントをちょっと大きめにしてできあがり。あっという間に、画面上に子どもたちの住所や名前が入ったタックシールが完成した。その場でプリンターに打ち出し、アシスタントの先生方に手伝ってもらって、シールをはり、子どもたちに手渡した。自分で入力した住所が送ってから何分も経たないうちに、手紙になって発送されたことに、子どもたちの表情は、うれしそうでもあり、不思議そうでもあった。また、ここでも「こわい。」という表情も伺うことができた。

3. 全体を通して

インターネットの発達は、今後今よりももっともっと身近な存在になることは間違いのないであろう。買い物も金融関係も自宅のパソコンから全て操作可能で、決済もオンラインで行われるのが一般化する日もそう遠くはない。便利になる一方で、悪事を働こうとする者が出てくるのも世の必然であろう。コンピュータのセキュリティは高くなる一方で、騙す方のテクノロジーもそれに追従する形で進む。このイタチゴッコが留まることはないであろう。最終的にネット上の損失は個人が被ることになることは多いであろう。そのような21世紀を生きる子どもたちに、今回の「送信ボタン」を押すときに「こわさ」がいつまでも残ってくれ、「このサイトは、安心できるものであるから送信する」という確認のワンステップが身につけてくれればと願うのである。

授業1時間目のわかったこと・感想

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

電話番号などを聞いてお金になることが今日わかった。すごくたのしい授業だった。もっと電話をできる時に、気をつける。

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

1人の人が友達などの電話番号(個人情報)を教えると、たくさんの人たちがめいめいくるので、たくさんの人たちが安心してできるようになるべし、考えないように心がけるといいと思いました。

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

下はちでんわがさがしてきたときにどうすればいいかがわかってた1人よかったです。家に来たときには、キツイことをいいましたが、これで助かりました。タメになった感じがしました。

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

わかったこと、あつめられた個人情報(住所など)で「どく」をしている人がいることがわかった。それに、いろいろな手口であつめている事や、本当に近いことまでだまして、だまされていることがわかった。

感想

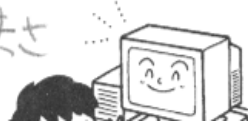
め、たいできない勉強だった。それに、全国?ですごい人(佐々木)先生に、色々なことを教えてもらった。5時間目の勉強が楽しみ!



今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「。ぎきたす人は、不自然じゃない。
。個人情報はおたくさんあった。
。おしえるときは、慎重に。」

先生の授業は、わかりやすかった。
（ぼくは、たぶん不慣れた電話にたまさ
れないと思った。



今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「前から個人情報は、教えては、ならないとわか
っていたけど、この学習をどうして、個人情報を
教えないことは、大切だと改めて思いました。」

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「知らない人から電話がかかってくるのがどうせ
たいおうあるかがわかった!! それにあつく自分のために
なったと思う。それにすし安心して家にいれる!!
今

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「。個人情報~~は~~も、教えることも
きけん~~な~~だということわかった。だから、
個人情報~~は~~大切だということがわかった。
でも、やっぱり、自分のお母さんとかのことで
電話がかかるとしたら、不審で個人情報も
もらしてしまうかもしれない。」



今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「個人情報がとても大事だということ
がわかった。自分の家にもし電話か
かもしかしたら言ってしまうかもしれないと思っ
た。」

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「お母のことでもやさしい声で言わなくても、まず
かくにんの電話をお母にするとかでわ、大切
だと思いました。電話などの場合は絶対に
しやべりはいけないということが
わかりました。」

授業2時間目のわかったこと・感想

2024/11/1

インターネットで「プレゼントのまうほ」をするのは、
初めてだったので「注意」のことは、しっかりもって
変なものがまくられたりしないようにしようと思った。

・感想

アンケートをやる時本当に応募するわけじゃないと本気になって
やっていた。アンケートのやくをやる先生がすごくお面白かったです。
わかんないことがあっても、こういういろいろなことがわかってよかったです。

・感想

インターネットを利用し、かんたんに、色々な人の個人情報加
わがるということ加わがり、すごくよくなりました。あと、すぐに
手紙などを送れるということ加わかった。



・感想

個人情報を入力するとへんに使われる場合があるので
あぶないと思いました。

・感想

すぐに住所はせたいにせたいに書きこんでは
いけないというのかわかりました。
コンピュータをおかしなサイトが出たら、すぐに
親に相談するように。ということなのでのコンピュ-タ
はこわいなあと思いました。

・感想

ほしい中物か<sup>あやしいと
あいつ</sup>あって、そ、どこで買ったかなどの(か)とした住所
がわいてあたりしたら、お、ちがうかも(れ)ないから、こ(る)い(お)り
^{まはしい}

感想

個人情報とは、あなたにかんして簡単に印さつや、保身んが出来るなんてすこいけどあるいみこわいと思う

感想

小学生だけというのがあるけれど、先生の作るホームページだったのよからた。けど自分で1回だけサイトにメールアドレスをおくたことがあったのでこれから気をつけようと思った。

感想

個人情報とはとてもかんたんに使われやすいから気をつけたい。たほが1111ということがあつた。

感想

個人情報がかんたんにいろいろたんにでまあるかもしれないのでこわいと思った。

感想

実際にインターネットでおうほにみてみるとアンケートで個人情報が入るのこわいと思った

感想

5時間目も個人個人情報の色々なこと子どもだけでおたらいけないことがわかつた。5時間目の学習もわかりやすかつた。

感想

4時間目と5時間目で学習した事が自分のためになればいいと思う。もしこのような事が自分にあつたら、この学習を思い出しながらやりたいと思う。それにこういうやつには、おこく気をつけたいと思つた。

感想

ぼくは、こおくて家にあるコンピュータで、そういうことはやってみたいけど、ぼくは勇気がないののでできません。たけどすこくべんきになつた。佐々木先生ありがとうございます。

(6) 成果と今後の課題

今回の授業では情報モラルの中の個人情報について扱った。情報モラルもとても広い範囲があり、その中のピンスポット的なものになる。この個人情報については、今回の授業実践を通して、子どもたちに同種の経験が降り注いできたとき、また遭遇した時に解決する力がついたことは成果であろう。また一方で、この情報モラルについては、まだまだ学校で指導していかなければならない内容が豊富にあり、もっと他の角度から情報モラルを指導していくということは大きな課題になろう。そのようなマクロなとらえをした上で、成果と今後の課題について触れていく。

1. 成果と思われるもの

- 冒頭述べたように、今回の授業実践においては、個人情報の保護の大切さを指導した。その結果、子どもたちには次のような力がついたことが成果としてあげられる。
- ・電話や訪問などで知らない人から、友だちの住所や電話番号を聞かれても、簡単に答えてはいけないこと。
 - ・相手方が誰なのかははっきりしない場合は、親に代わる、親のいる時にしてもらい、電話だとかけ直して確かめるなど、対処の仕方があること。
 - ・緊急の場合で、相手に自分のことを話さなければならぬと感じた時は、自分の経験で、考えて判断すること。結果的にその判断が間違っていたとしても、それは責められるべきものではないこと。
 - ・インターネット上での個人情報の入力については、とても便利であるが、その一方、デジタルになったデータは非常に扱いやすく、また第三者に流される可能性もあり、相手が信用できるかどうか、よく考えてから情報を入力すること。
 - ・ネット上の金銭トラブルなどが多数報告されていることから、子どもがクレジットカード番号や銀行口座の番号などをネット上に書くことは絶対にしてはいけないこと。

子どもたちは、不審電話については経験や間接経験を通し身近なものとしてとらえることができ、今後の生活に活かすことができるだろうと考えられる。またインターネットでの書きこみについては、経験している子どもが少ないことから、ドキドキしながら、「送信ボタン」を押していた。授業の反省のところでもふれたが、「ちょっとこわかった」という子どもたちの言葉が聞かれた。このことは、今後子どもたちが大きくなって、益々インターネットが身近となった時に、送信ボタンの上にマウスが来た時、「ちょっと待てよ。」と自分自身に確認の気持ちを持たせ、規約をもう一度見るとか、信頼してよいサイトかを再考する時間が一瞬でも作ることができることにつながっていくであろうと考える。

2. 課題と考えられるもの

(1) 今回の授業を通して

今回の授業では、教材作りにとっても時間がかかった。音声スキットでは、教育大学の学

生さんに、協力していただいた。また、ニセのホームページ作りについても、それなりの時間をかけて作った。また、悪徳業者がデータを処理する場面では、コンピュータ操作に関して、一定レベルの精通した能力が必要となる。そう考えると、同じ授業を誰でもが追試することができるかということそれは難しいと言わざるを得ない。教師は情報教育を児童にしていくことは求められるが、パソコンのエキスパートである必要はない。

今回の授業だけについて言えば、自分だから、思った通り、好きなように授業をくめたかなあと思う。課題としては、今回のような授業を誰でもが実施できるよう、教材の扱いをできるだけ容易にしていくことが求められるであろう。

次に怪しい電話に対する対応である。授業では、怪しいニセ電話、そして怪しいかそうでないかわからない電話を扱った。子どもたちの多くは、いずれに対しても、ほとんどの子どもが「個人情報教えない」と語った。私は授業で、情報を教えなければならない場合もあるということは子どもたちにはっきりと伝えた。本物かニセか子どもたちが悩まなければならない時代が何とも悩ましいが、その場、その場に合った判断が本当のこの授業で身についたのか、また、どのようにすることが、警戒心を持ちつつも人間同士お互い信頼していくものと子どもたちの心に落ち着くか考えることも課題だと感じた。

ホームページでのキーワードは「こわい」であった。授業の話し合いの中でも、このこわさの「さじ加減」が適切であったかが問われた。子どもたちの感想の中には、「こわかったけど、勉強になった。」というものが多かった。私は子どもたちに、「インターネットでの個人情報入力は慎重に」ということを訴えたかった。子どもたちにとって、それが、インターネットから情報を送るのはこわいこと、悪いことと思ってしまうのは授業が失敗になる。逆に、「楽しかった。おもしろかった。」でも困るのである。自分なりに子どもたちに適切であると思うさじ加減と考えたが、効きすぎ、効果薄などあるかもしれない。小学校5年生という段階に今回のニセホームページからの情報発信は、適切だったのかどうか、また、それを同検証していくのが今後の課題であろう。

(2)情報教育全体を通して

授業は、情報活用能力の3つの目標のうち「情報社会に参画する態度」に関わる情報モラル、しかも個人情報の保護という全体から見るととても小さい領域について指導した。もっとも、今回の授業は、ホームページから情報を発信するという、「情報活用の実践力の育成」、私の操作を見るだけではあったが、データ処理の仕方を学ぶ「情報の科学的な理解」を含むものではあったが。

子どもたちに小学校段階でつけさせておくべき、情報モラルについては、今回の個人情報以外にも、数多にある。それを教育課程にどう位置づけ、どのように指導計画をたて、実践していくか、非常に大きな問題ではあるが、考えていかなければならないことである。子どもたちにとっては、教師の話だけでは、なかなか心には染みていかない。何かしら教材を作り、子どもたちに体験を通して指導していくことが大切であると考え。そのため教材やワークシートなどの情報の共有化が望まれる。

(6)最後に

コンピュータを取り入れた情報教育は、これからもますます、学校現場に求められてくるであろう。得意な先生が自分のクラスでやっていくのみではなく、学校全体で計画を立て、推進していかなければならない。

渡島では、情報教育の推進に向けて、私の所属する視聴覚教育研究会、情報教育研究会がその一翼を担っていると自負している。

私たち、情報教育を研究、推進する者は、これからも実践を通して研究を進め、情報を提供していき、管内の研究推進に寄与していきたいと考える。